

災害時のし尿等の収集運搬で協定

町と田中産業有限会社（東三浦）は「災害時におけるし尿等の収集運搬の協力に関する協定」を締結することになり、12月5日、役場大島庁舎において調印式が行われました。

災害時には通常の収集運搬に加え、避難所等のトイレや損壊した便槽の汚物など様々な対応が必要とされ、協定により人材や資機材の集中投入や、同社が加入する（一社）日本環境保全協会への応援要請も可能となります。協定の締結にあたり椎木町長は「一番大事な問題。町民の皆さんに大きな安心がもたらされる」と期待を寄せ、田中産

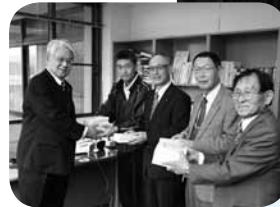
業の田中裕之社長も「責任の重さを痛感している。大規模災害の支援の経験を活かし責任を果たしていきたい」と抱負を述べられました。



し尿等の収集運搬の協力の調印式

あったかいね手作りの年賀状

▶かわいい年賀状が完成しました



▲西川教育長へ年賀はがきを手渡すライオンズクラブの（右から）岡崎政幸会長、石川春美幹事、中山周三会長、福川高志会長

文章を書く大切さを知ってほしいと、12月4日、町内3つのライオンズクラブから、今年も町内の小学生464人に年賀はがき1000枚が贈られました。本事業は今回で3回目。

年賀はがきは町内の全児童に2枚ずつ配布され、久賀小学校では1年生が紙版画で干支の戌をデザインし年賀状を作成。交流会で一緒に遊んだり給食を食べたりした高齢者の皆さんに宛てて「また遊びに来てね」「いつまでもお元気で」などメッセージを書き込んでいました。

地域おこし協力隊員 山崎千寿のしましまタイムズ

SHIMASHIMA TIMES

24

周防大島町定住促進協議会
☎0820 (74) 1007

先日、東京の池袋サンシャインシティにて全国の島々が集まる祭典「アイランダー」が開催され、観光協会と定住促進協議会で参加してきました。

アイランダーとは、日本の島を盛り上げていこうと毎年開催されているイベントで、今年も北海道から沖縄までの島々から大勢の人が集い、観光や特産品、文化の紹介から移住や仕事に関する事など多岐にわたる情報を発信しました。

周防大島のブースでは、みかん鍋の無料振る舞いや定住促進協議会のPRグッズである「シマグラシ」の配布を行い、ステージプログラムでは、UITターンをして周防大島で暮らしている方々のことや動画などで周防大島の見所を紹介しました。

およそ90もの島々が参加した今回のアイランダー。賑やかな会場を一周



▲椎木町長（左から3人目）も応援に駆け付け一緒にみかん鍋を振る舞いました。

すると、知らない島がまだまだありました。ユニークな島人や島ならではの食に触れ、美しい海や山の風景を見ると周防大島生活3年目の私でも訪れてみたくなるほどなので、都心部で生活している人々は余計に惹かれるものがあるのかもしれない。2日間の長丁場でしたが、これまでに50もの島を訪れている島好きの方、クジラの研究をしている方など、様々な島の方とも『島話』ができて、たくさん元気をもらいました。

さて、次回の海そうじは3月28日（水）午後3時から三浦西の浜にて行います。ご参加お待ちしております。